

<全体分析>

試験時間

90分

解答形式

記述式（一部客観式）。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）

2022年度は読解問題2題で総語数は1,476 words だったが、2023年度は読解問題2題で総語数は1,549 words となり、やや増加した。ただし、問題の難易は変化なし。

出題の特徴

- ・和訳、英作文を中心とする国公立大型の記述式問題と、私立大型の客観式選択問題で構成されている。
- ・英文和訳問題では、英文の正確な構造把握をベースにした自然な日本語訳が求められている。
- ・内容真偽問題においては、本文の内容から判断できないものと、本文の内容に矛盾するものの区別が求められている。

その他トピックス

- ・2022年度と同様に大問3題構成。[I]は、英文和訳・和文英訳・説明問題といった記述中心の設問となり、[II]は、客観問題と英文和訳・説明問題で構成されていた。
- ・[III]の自由英作文の語数指定は、ここ数年100語以上で安定している。
- ・[I]の問3では「the case が指すものを明らかにして」という指示があったが、これは「this が指す内容を明らかにして」と指示すべきであったと思われる。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
[I]	読解総合	「健全な海の音は崩壊した海洋生態系を蘇らせる」 (717 words)	問1 英訳問題。 問2 和訳問題。(have a hard time <i>doing</i> の訳出) 問3 条件付き和訳問題。(現在分詞の後置修飾、主述関係の把握、the case の指示内容明示) 問4 動詞の語形を適切に変える問題。(オ)はbe 動詞が必要。 問5 英訳問題。 問6 和訳問題。(twice as many ... than ~ の訳出) 問7 語句整序問題。 問8 英訳問題。 問9 和訳問題。(主述関係の把握、語彙の適訳) 問10 内容説明問題と理由説明問題。 問11 内容一致問題。	やや難
[II]	読解総合	「独身大国ニッポン — つながりのコミュニティ」 (832 words)	Q1 客観式問題。下線部と同意の動詞を選択して適切な形に変える。 Q2 説明問題。 Q3 客観式問題。文脈を理解して空所に入る名詞を選択して適切な形に変える。 Q4 表現の言い換え問題。 Q5 条件付き和訳問題。(同格、現在分詞の訳出、this の指示内容明示) Q6 語句整序問題。 Q7 和訳問題と理由説明問題。 Q8 語句整序問題。 Q9 和訳問題。(同格、主述関係、little more than の訳出) Q10 内容真偽問題。C (読み取れないもの) を含む設問。	標準
[III]	英作文	自由英作文「日本の若者が留学しない理由」	自由英作文「2019年のデータを基に日本の若者が海外留学しない理由」100語以上の英文で書く。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年、大問構成に多少の変化が見られるものの、下線部和訳と英訳、内容説明、及び自由英作文が設問の中心であることには変わりはないので、とりわけ英文の構造理解力をつけることが肝心である。なお、基本的な文法・語法・イディオムなどの出題は姿を消しているが、この点もしっかり学習しておくことよ。ここ数年、読解問題のテーマは、医学・医療だけでなくそのほかのさまざまな分野にも及んでいるので、本学部の過去問はもちろんのこと、記述問題を中心とした国公立大型の学習を積む必要があるだろう。自由英作文については、状況を説明したり、個人的体験や好み、また社会問題に対して自分の意見を主張したりするなど、さまざまなテーマを設定して、100語以上の長さの英文を書く練習を重ねていく必要がある。日本語、英語ともに記述量が多いので、解答を作成する実践演習が合否を決定すると言えるだろう。